

## 「こころ」のなかの集団

### 目次

- 1 はじめに
- 2 社会心理学について
- 3 社会的アイデンティティ理論を考える
- 4 社会的アイデンティティ理論を使うと
- 5 おわりに

### 1 はじめに

・アウシュビッツ強制収容所所長 ルドルフ・ヘース

250万という驚くべき数の人々を死に追いやったという事実——あなたが殺害を監督し、1943年以来、監督下にあるほかのすべての収容所を視察したことは言うまでもないが——そうした事実、少しでも心をかき乱されることはあるだろうか。「私は正しいことをしていると思っていたし、命令に従っていると思っていた。いまは、もちろんそれが不必要で正しくないことだと知っている。しかし、このことで心がかき乱されることは、どういう意味か、私にはわからない。私は自分で人を殺してはいない。アウシュビッツで絶滅計画を監督しただけだ。ヒムラーを通じてそれを命じたのはヒトラーであり、移送に関する命令を私に下したのはアイヒマンだ」。このときの処刑やガス殺や死体の焼却について考えることはあるか。言い換えれば、ときどき思い出して頭から離れないことはあるか。「ない。そのような幻覚はない」(p238 「ニュルンベルク・インタビュー」)

### 2 「人間の社会的行動の科学的研究である」社会心理学について

- ・社会心理学とは(Allport,1985)「他者の現実的、想像的、あるいは含意的存在によって、諸個人の思想、感情、および行動がどのような影響をうけるか、を理解し説明する試み」
- ・現状…実証的な研究ばかりで理論的な発展がない
- ・「心理学的」社会心理学と「社会学的」社会心理学とが混ざり合っている  
→「本質的、全体的に個人心理ではない集団の心理は存在しない。  
社会心理学は…個人心理学の一部である。」(Allport,1924)
- ・「社会学的」社会心理学を体系化するための「社会的アイデンティティ理論」

### 3 社会的アイデンティティ理論を考える

社会中心のマクロな分析に限定した理論

・社会的アイデンティティの定義：

「ある個人の感情的および価値的な意味づけを伴う自分が  
ある社会集団に所属しているという知識」

・社会的アイデンティティ理論の前提：

社会は相互に関係のある勢力と地位を意味する

さまざまな社会的カテゴリーからなっている

社会的アイデンティティ理論の三つの柱

#### ①カテゴリー化

対象を理解するために分類する

人間について理解し、社会的環境との関連をわかりやすくするため

(日本人、イギリス人、黒人、イスラム教徒、学生、医者…)

「個人がその社会的な場所をつくりやすくし、定義づけるための方向性としての制度」(Tajfel)

#### ②同一化

人は自分が属していると感じる集団に対して自我の同一性を認める。

(a)個人的アイデンティティ…only one

(b)社会的アイデンティティ…集団の一員

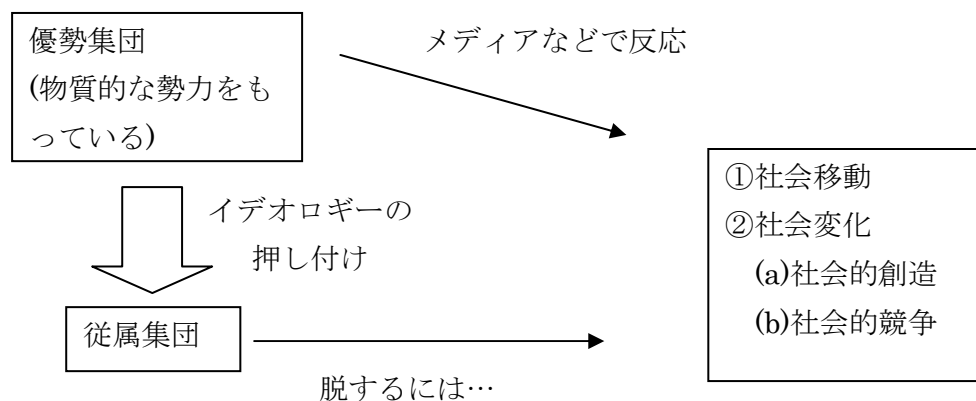
#### ③比較

すべての知識が社会的比較を通じて社会的に得られるとする

人は自身を肯定的にみる→所属する集団も肯定的にとらえる

内集団に有利な次元上で、集団間の差異が強調される

構造



#### 4 社会的アイデンティティ理論をつかってナチを説明

《従来のナチズム説明の一例として》

E.フロムのナチズムの心理 「自由からの逃走—第6章」

フロイトに強く影響されている(※心理力動モデル)

心理的背景…敗戦・インフレ・君主制崩壊

下層中産階級	中産階級以外
無力感、不安、孤立感	疲労・あきらめの状態

ヒトラーの教説・ナチの組織は、サド・マゾヒズム的欲求をみたした(資料参照)

- ・マゾヒズム…自分が小さいという感覚を誇張し、外界の中に一体化することで孤独感から逃れようとする意識の表れ。権威に従うことで、孤独感から逃れようとする。
- ・サディズム…他人を支配し、苦しめようとする。それも支配し苦しめる相手を必要とする、という面からみると孤独ではいられない。

→同じパーソナリティの中にまじりあって同時に存在する。

このような性格が強い人間を**権威主義的パーソナリティ**という。

- ・問題点…フロイトの心理力動モデルに基づいているため、個人の心理状態が基本にある。それを集団に当てはめるのは還元主義ではないか  
偏見や差別にはパーソナリティの要因よりも文化的な要因の方が大きいのでは

《社会的アイデンティティ理論による説明》

ドイツが従属集団であった⇒社会変化を求めた

ユダヤ人への差別・ナチズムへの同調

⇒どちらもカテゴリー化に端を発する

①ヒトラーはナチというカテゴリーを作った

②ドイツ国民はナチズムの社会的アイデンティティをもつ

③他民族・国家とドイツ国民の比較

(a)差別	(b)同調
カテゴリー化による強調 ↓内集団びいき ↓ステレオタイプが共有される 差別	自己のカテゴリー化 ↓ステレオタイプの規範の形成 ↓規範を当てはめる ↓カテゴリーの成員であることの明瞭化 同調

5 おわりに

【参考文献】

- ・ M.A.ホッグ/D.アブラムス 『社会的アイデンティティ理論』 北大路書房 1995年  
(Michael A. Hogg/Dominic Abrams(1988) 'Social Identifications')
- ・ 末松俊郎 安藤清志 『現代社会心理学』 東京大学出版会 1998年
- ・ オフェル・フェルドマン 『政治心理学』 ミネルヴァ書房 2006年
- ・ レオン・ゴールデンソーン 『ニュルンベルク・インタビュー』 河出書房新社 2005年
- ・ E.フロム 『自由からの逃走』 東京創元社 1951年
- ・ 向井拓郎 「第6章 ナチズムの心理」 2007年11月8日発表 (伊藤彌彦ゼミ)